

科目名		小児看護学	単位(時間)	5単位(180時間)
担当講師名		専任教員 他	DP	1・2・3・4
科目設定理由		小児看護学では、各期で特徴の異なる子どもの成長発達や子どもと家族を取り巻く環境について理解し、小児看護の基礎を学ぶ。また、健康障害をもつ子どもと家族の状態や状況を包括的に捉え、最善の利益を守る看護を考えることを目指し、科目設定した。 小児看護学概論では、子どもの各期の特徴や小児看護の理念・役割・子どもを取り巻く環境や子どもの安全、小児看護における倫理を学ぶ。小児看護援助論Ⅰでは、小児看護学概論を土台に、子どもが罹患しやすい疾患と症状を知り、健康障害を持つ子どもと家族の置かれている状況を包括的に捉え、看護実践ができる能力を養う。小児看護援助論Ⅱでは、疾病・障害をもつ子どもに適切に対応し、子どもと家族がその人らしく生活するために必要な看護を学ぶ。また子どもの特徴や治療・検査・処置に応じた援助技術を学ぶために設定した。		
科目構成	科目名	小児看護学概論	小児看護援助論Ⅰ	小児看護援助論Ⅱ
	単位時間	1単位30時間	1単位30時間	1単位30時間
	履修時期	31期生 1年次前後期	31期生 1年次後期	30期生 2年次前期
	学習範囲	1 小児看護の特徴と理念 2 子どもの成長・発達 3 各期の子どもの特徴 4 子どもと家族を取り巻く環境 5 子どもの安全 6 子どもの成長発達に合わせた日常生活援助 7 小児看護における倫理	1 子どもの疾患と主な症状 2 健康障害をもつ子どもと家族の看護	1 さまざまな状況や状態にある子どもと家族の看護 2 治療・処置・検査を受ける子どもの看護 3 障害のある子どもと家族への支援
	科目名	小児看護学実習		
	単位時間	2単位 90時間		
	実習のねらい	小児看護の対象は、健康のあらゆる段階にあるすべての子どもです。子どもは常に成長・発達の途上にあり、その過程やあらわれ方は一人ひとり異なります。また、どのような状況にあっても自ら健やかに育とうとする力をもつ存在です。本実習では、子どもへの倫理的配慮や権利の尊重を基盤として、発達段階やその子どもの特性に目を向け、子どもの行動や反応の意味を考えながら、その子らしく健やかに育つ力を支える看護を理解し、状況に応じて判断する基礎的能力を養うことを目的にしています。 実習は、保育所、特別支援学校、小児病棟における体験を通して行います。保育所では、生活や遊びの中にある子どもの成長発達を捉え、基本的な生活習慣の形成を支える関わりや、子どもが安全に過ごせる環境づくりの視点を学びます。特別支援学校では、個性や発達の多様性に気づき、その子らしい生活を支える支援について考えます。小児病棟では、治療や療養を必要とする子どもの身体的・心理的・社会的状況を総合的に捉え、入院という環境の中にあっても対象の安全を確保しながら成長発達を支える看護を学びます。特に病棟実習においては、その時その場にある子どもの状態や反応をふまえ、状況を判断し安全に関わる姿勢が重要です。また、さまざまな感情を抱える子どもの思いに寄り添い、一人の人として尊重し、成長発達にあったコミュニケーションをとり、子どもの権利擁護に努めましょう。 子どもの入院は、その子を取り巻く人々に影響を及ぼします。子どもと家族を一つの看護単位として捉え、家族の思いや生活背景を理解しながらどのような看護が必要か考えましょう。 様々な場で生活する子どもへの支援は、看護師だけで成立することはありません。対象を中心とした他の専門職との連携で成り立っています。他の専門職とのやり取りを通じて一緒に未来に向かう人々を支える実習にしていきましょう。		